学美

これから描く私たちの「まなぶ」

村上　晴大　打ち込み、アンケート、構成
岩﨑　礼恩　打ち込み、メモ、構成
藤原　大嘉　打ち込み、資料集め、構成

始めに・・・

授業と聞いたときふと、思ったことがある。

「授業眠たくない？」である。

毎回ではないが、眠たいときはとことん眠たい。

しかし、それは自分の寝不足であることも考えられる。

そこで友達に聞いてみた。

「いまの授業眠くなかった？」

返事はほとんどこれである。

「眠い！」「OO先生の授業は毎回眠い」である。

ここから自分だけでなく寝不足の可能性も低いということが分かる。

また、特定の先生の授業が眠たいということが分かった。

その理由は時間割、科目の好き嫌いなどであると考えたが

三人で**教え方**に注目することにした。

授業スタイル

まずは教え方、授業方法の種類について調べた。

調べた中で出てきた種類は四種類であった。

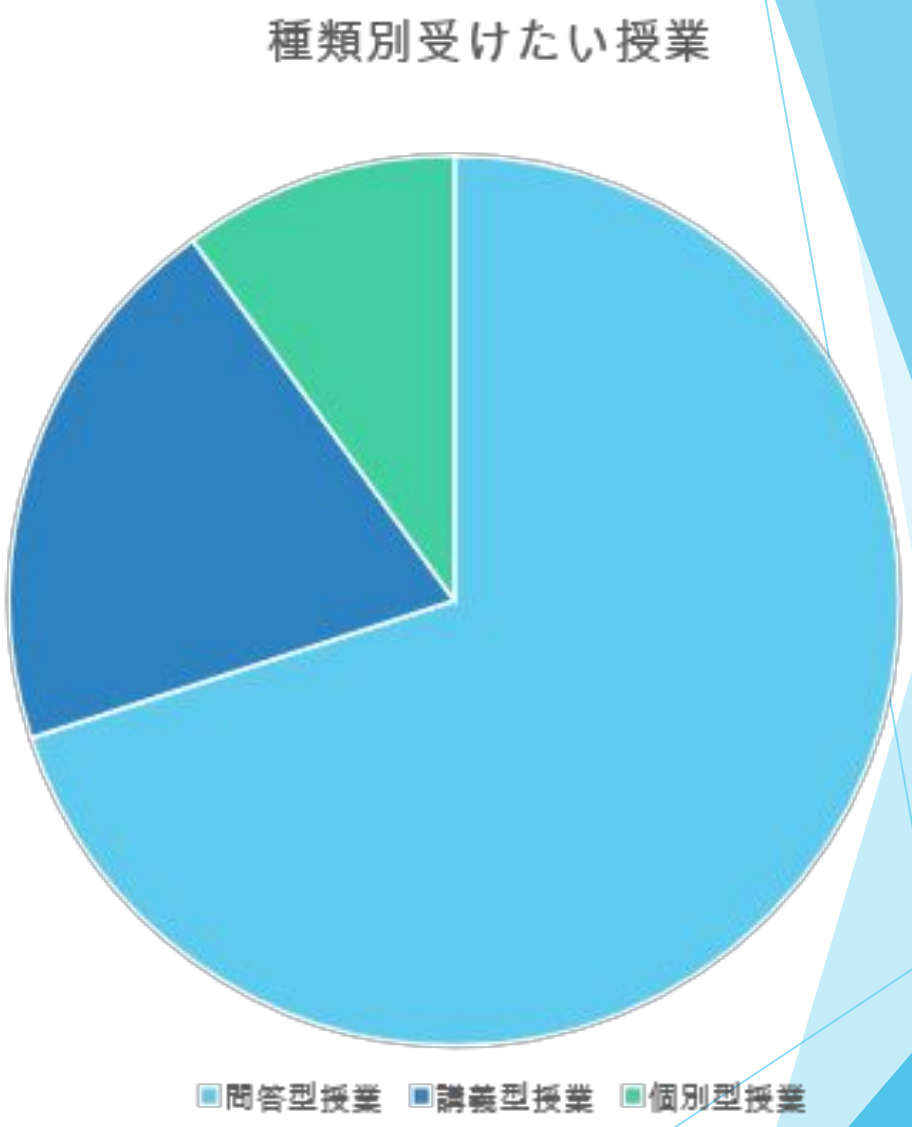
1. 講義型授業　知識特化
2. 問答型授業　知識特化
3. 個別型授業　知識特化
4. 対話型授業　思考力特化

の四種類である。それぞれメリット・デメリットはある。

そこで、知識特化の授業だけで授業を受けるならどの授業がいいかでアンケートを取った。（思考力特化は一つしかないため）

結果

問答型授業が圧倒的に多い。その次に講義型、個別型の順だった。
それぞれのメリット・デメリットをあげ、理由を見ていく。



講義型授業

教師が一方的に話をする授業スタイル

情報を確実に伝えたいときに有効

メリット

- 伝えたいことを伝えきれる

デメリット

- 子どもの主体的な思考や試行錯誤が生まれにくい（自分で考えない）
- 子どもが自力で考える力や課題を解決する力などは育ちにくい
- 子どもどうしの関わり合いがない

一方的に言うため、
知識、スキルは定着しやすいが
考える力（探究力）はほぼ得られない。
また、メンタル的にきついのが
割合が低い原因と考える。

問答型授業

講義型授業の中に発表、発言などによる問答を挟む授業スタイル
情報を伝えつつ、子どもに考えさせたい授業に有効

メリット

- 伝えたいことを伝えられる
- 子どもが発言することで、限定的ではあるが思考を促すことができる

デメリット

- 子どもの主体的な思考や試行錯誤が部分的にしか生まれない
- 多くの子どもにとって自力で考える力や解決する力などは育ちにくい
- 子ども相互の関わり合いが部分的

講義型授業が根本にあるため、

知識、スキルは定着しやすいが

探究・問題解決力はすこし得られにくい。また、一方的ではないため、自分が授業に参加している感があるのではないかと思う。（眠くなりにくく、授業が楽しく感じる。）

個別型授業

- ワークシートやタブレット端末・パソコンなどを使用し、個別に指導を受ける授業スタイル。
  メリット
- 一人一人の子どもの学力に合わせて授業できる
- 学校以外の場所(自宅など)でも、授業を受けることができる
- デメリット
- 思考力が育まれにくい
- 子どもの学力に合わせるため、急な学力の向上がみられにくい
- 子ども相互の関わり合いがない
- 一人一人に合わせた指導プログラムを作成する時間、コストが必要となる

講義型授業よりは探究・問題解決型が少し高いが、それでも探究・問題解決力は得られにくい。

また、知識・スキルは得られやすい。

個人の学力に合わせて授業を組むため、時間とコストがかかってしまう。

対話型授業

- メリット
- 子どもの主体的な思考や試行錯誤が生まれる
- 子どもが発言する機会が増え、同時に違う意見と出会うことができる
- 子ども同士の関わり合いにより、新しい見方や考え方を見いだすことができる
- 子どもが自力で考える力や問題解決力が育ちやすい
- デメリット
- さまざまな子どもの発言や話し合い・討論に対応した指導が求められるため、教師の授業力が問われる
- 指導が不十分だと教科が得意な子ども<u>だけ</u>が活躍する恐れがある
- 学力差が激しい場合、授業についてこれない子どもが生まれるおそれがある

探究・問題解決力はとても得られやすい。
知識・スキルは得られにくい。
また、最近注目され始めたので
教えられる先生がいないという
問題がある。

考え

これら4つの授業スタイルの特性を踏まえたうえで私達は問答型授業と対話型授業をすすめたほうがいいと考える。

理由

問答型授業：眠くなりにくく、知識・スキルを得やすいため。

解法等を考え、共有することができるから。

対話型授業：問題解決力が得られやすく、人の考えとふれあうことが出来るから。

また、問題解決力を得られやすいのは対話型授業だけだから。

対話型授業①

私たちの学校では、対話型授業が行われている。

その例としてまわし読み新聞という活動がある。

まわし読み新聞とは、新聞記事の内容について地域の方々と意見交換をする活動である。新聞記事を使うことで今何が起こっているかを知ることもできる。

また、ひとつの記事についていろいろな見方をすることができるというのもメリットである。いろいろな見方をすることで、ニュースなどでのマスコミ視点ではなく当事者目線で考えることもできるようになる。

当事者目線であると、事件の見方も変わり、様々な考えを生み出すことができる。

対話型授業②

私たちの学校ではもう1つ対話型授業を取り入れた活動が行われている。

それはトークフォークダンスという活動である。

トークフォークダンスとは地域の方々と生徒同士が向かい合って円になり、出されたお題について数分間で意見を交わす活動である。

相手を変えながら踊るフォークダンスと同じように話す相手を変えることで様々な意見をそれぞれの視点で学ぶことができるというメリットがある。

また、たくさんの人とのコミュニケーションが取れることや意見を深められる。

対話型授業③

また、対話型授業にはディベートと呼ばれる話し合いがある。

これは、ある事柄について肯定派と否定派に分かれて討論をすることである。

具体的には肯定派が意見を言い、それに対して否定派が質問をする。

次に、否定派が意見を言い、それに対して、肯定派が質問をする。

お互いに反論を出し合い、最終的に第三者にどちらの意見が説得力があるのかを決めてもらう形式である。

これを授業に取り入れることでより根拠のある意見を考え出すことができる。

オリジナル対話型授業

そこで、まわし読み新聞やトークフォークダンスに加えてオリジナル対話型授業を提案する。

自分たちで考えたオリジナル対話型授業

先生がテーマと資料を用意する。

生徒はテーマについて意見をだす。意見が同じ生徒同士が数人集まりグループになる。そして先生が用意した資料を使い、根拠を提示し発表をする。発表が終わったら別の意見のグループが質問をだし、それにこたえる。そして先生が納得できた意見を最後に言う。

この方法のいいところは、違う意見の生徒とも話すことで、「そういう視点もあるのか！」という気付きを得ることができるところである。また、資料を使って論理的に考えることができるのもメリットである。

デメリットは先生が授業準備をする際に、大きな負担がかかってしまうことである。

最後に

このアクティブラーニングを通して、私たちにとってどのような授業が将来の「学ぶ」にいい影響を与えていくのかを、４つの授業スタイルや私たちが通う学校の活動の内容などの様々な視点から考えることができ、そこからオリジナルの授業を考案することができて良かった。

いきなり授業を変えることは難しいと思うから、学校などで積極的に発表や、話し合いをしていきたいと思う。